



## 150年ぶりの里帰り

戊辰戦争の前年に京都で自害した「都城六烈士」の御霊を慰霊碑に移す祭儀が12月26日、旭丘神社祖霊社（都島町）で行われました。

六烈士は、都城島津家の隊士として出兵し無念の死を遂げた6人の若者で、墓碑は京都に残されたままでした。6人の御霊を里帰りさせるために、数年前から「都城島津を温る会」が準備。御霊は、市民から寄付を募り建立した慰霊碑に分霊され、150年ぶりの里帰りが実現しました。祭儀には会員ら約40人が参列し、故郷都城での安らかな眠りを祈りました。



六烈士御分霊鎮座祭

## 新年を迎える準備

都城盆地に伝わる年越しの風習「シラスまき」が12月29日、愛宕神社（今町）で行われました。乾燥すると真っ白になるシラスを雪

や塩に見立てて境内を清め、一年間の五穀豊穡と無病息災に感謝して新年を迎える伝統の行事。地元公民館の氏子ら8人が、約2トのシラスをスコップやほうきなどで境内にまき、新年を迎える準備を整えました。氏子総代表の中馬樹美郎さん（今町）は「参拝する人になすがすがしい気持ちで、新年を迎えてもらえればうれしい」と息を白くしていました。



シラスまき

## 力を込めてモグラ退治

農作物に害をもたらすモグラを退治し、五穀豊穡を祈願する正月の伝統行事「モグラウチ」が1月6日、乙房町平田地区で行われました。地元の小学生ら約30人が保護者と一緒に220戸

ほどを訪問。「モグラウツがきたど」とはやし唄を歌いながら、縄の先端に結んだたわらの打ち具を庭先の地面に打ちつけモグラを追い払い、お札に菓子などをもらっていました。満永昌孝さん（乙房町）は「地域の人たちと一緒に打ち具を作れて、子どもにとって良い経験になった」と話していました。



モグラウチ

# 年末年始のあれこれ



市内各所で年末を彩るイルミネーションや、正月を迎える行事、五穀豊穡を祈願する新年の行事などが行われました。平成30年元旦は、美しい初日の出も見ることができ、明るい1年の始まりとなりました。



初日の出



こだま 興玉神社夜神楽大祭



山之口町富吉・新春初詣健康マラソン大会



中心市街地クリスマスイルミネーション



## 新年の誓いを書にしたためる

本市PRロゴ制作者の書家紫舟さん指導の下、新年の誓いを書でしたためる大書初め大会が1月6日、早水公園体育文化センターで開催されました。今回は、過去最多の220人が参加。参加者らは、とめ、はらいなど書き方の指導を受けた後、全紙に新年の目標などを書いていました。イベント担当の瀬之口夏織主事(総合政策課)は「子どもからお年寄りまで、たくさんの方が参加してくれて良かったです。書き初めた新年の目標を忘れずに、素晴らしい一年を過ごしてほしい」と話していました。



大書初め大会

## 石川理紀之助翁がつなげた縁

秋田県潟上市の小学生と山田町の小・中学生との学校間交流が1月11日と12日、同町小学校などで開催されました。この交流は、秋田県の農業指導者「石川理紀之助」が、明治期に山田町谷頭で農民を救済した縁で始まりました。潟上市の小学生らは理紀之助翁にゆかりのある史跡の見学や、翁の夜学会で学んだ生徒の子である竹森和昭さんが大切に保存している翁の書や手紙など交流の歴史を学習。この他、がね作り体験や「りきのすけカルタ」などを楽しみながら交流を深めていました。



秋田県潟上市と山田町の学校間交流

## 地域の安全を守る消防団

都城市消防団の出初式が1月14日、沖水川河川敷で開催されました。市民の生命や財産、安全を守るために地域で活動する約千人の団員が参加。服装や規律の点検の後、各分団消防車から一斉に放水されると、七色に彩られた水が虹のように弧を描き、会場では歓声が上がっていました。また、放水体験やはしご車搭乗体験なども行われ、多くの家族連れが楽しみました。鳥取一馬くん(明和小3年)は「放水の勢いに驚いたが、おもしろかった。消防団の人が格好良かった」と息を弾ませました。



都城市消防出初式



島津deマルシェ



高城町桜木地区・オネッコ



公設地方卸売市場取引業務開始式



下水流町・カセダウリ



都城市成人記念ロードレース大会



神柱宮・七とこさん

# 久留

smiling faces of miyakonojo

10月に岡山県倉敷市で開催された「津軽三味線全国大会in倉敷」で、久留若菜さんが一般女性部門で優勝しました。

久留さんが出場した一般女性部門には、全国の高校生から60歳代まで23人が出場しました。出番の直前に弦が切れるアクシデントもありましたが、自ら張り直し、師匠でもある津軽三味線石井流家元の石井秀弦さんが編曲した「津軽じょんがら節」を堂々と演奏。見事、優勝の栄冠を手に入れました。「楽しむことを大切にしながら演奏した。審査員が目の前にいて緊張したが、徐々に落ち着きを取

り戻し、普段通りの演奏ができた」と話す久留さん。「優勝できると思っていたなかったので、うれしくて飛び上がった」と喜びを話します。

5歳の頃、母親と一緒に行った石井さんの演奏会で、津軽三味線の迫力に感動したことがきっかけで津軽三味線を始めた久留さん。以来、石井さんの下で、月3回ほど稽古に通いながら腕を磨き、各地で開催される大会に出場。中学1年生の頃には全九州コンクールジュニアの部（中学生以下の部）で優勝するまでに成長しました。日ごろの練習では「情景を思い



## 津軽三味線全国大会 in 倉敷

一般女性部門優勝

ひさどめ  
久留 若菜さん  
(都城西高等学校1年)

浮かべ、強弱を付けて気持ちの入った演奏を心掛けています」と話す久留さん。石井さんは「腕のしなりを生かした力強いバチさばきで、男性にも負けない迫力のある音と、女性らしい気持ちいを表現できる繊細な技術が持ち味。子どもの頃から舞台上上がっているので経験も豊富」と、久留さんの演奏を評価します。

市内で開催される演奏会のほか、地区の敬老会や老人ホーム訪問などでも演奏を披露している久留さんは「演奏を聞いてもらい、皆さんに喜んでもらえることが何よりの励み」とやりがいを話しま

す。家の前を通ると久留さんの練習する音が聞こえることから、近所の人に声を掛けてもらったり、演奏会を聞きにきた人から感想をもらったりするなど、津軽三味線を通して地域の人たちとも関わりを深めています。

将来の夢は「医療関係の仕事に就き、患者さんに津軽三味線の演奏を聞いてもらって心のケアに役立てたい」と話す久留さん。「勉強と両立し、地域の人たちと関わりながら、津軽三味線を続けていきたい」と希望に胸を膨らませていました。



迫力ある音と繊細な技術で  
津軽の情景を奏でる